ジョイセフ
JOICFP
途上国の妊産婦と女性を守る

熊本地震
被災女性・母子
支援活動レポート

2016年4月ー2017年3月

もくじ

01 被災女性・母子の状況 P3

02 支援の内容 P4-5

1 避難所等での性被害や性暴力防止啓発活動 …… 4
2 心の癒しギフト …… 4
3 助産師の家庭訪問による産婦・乳幼児支援活動 …… 5
4 母と子の癒し交流サロン活動 …… 5

03 熊本の声 P6-9

1 交流サロンにて …… 6
2 助産師・サポーターの声 …… 8

04 これからのために P10

支援企業・団体 …… 11
収支報告 …… 11

01 被災女性・母子の状況

2016年4月14日の前震と16日の本震2回、震度7の直下型地震が熊本地方に発生しました。ほぼひと月後の5月中旬頃までには震度1以上の余震が1500回に達し、過去最多を記録しました。この状況のもとで、連日の地震に怯えながら過ごしていた産後1カ月前後の女性を対象に、産褥期のうつに関する調査が熊本市内の病院で実施され、その結果、産後うつになるリスクが高い母親が震災前の通常期に比べ2倍に増えたという報道が5月中旬にありました。

5月の連休明けから、熊本県助産師会は熊本市の「こんにちは赤ちゃん事業」の委託事業を受け、母子訪問を再開しました。母子の訪問で寄り添う支援を行いつつ、妊娠中の女性や出産後の乳幼児を抱えた母親や家族が被災後どのような状況にあったのか、どのようにしてどこに避難したのか、災害に対しどう乗り越えてきたのか、被災後の妊婦と乳幼児を抱えた母親の避難行動と母子の状況についてインタビュー調査を行いました。

200数名の女性へのインタビュー調査の結果、68%が前震の前日13日までに出産し、出産直後に被災していました。5%が前震と本震の3日間に地震に怯えながら出産し、そして、27%が被災時に妊娠中でした。女性たちの避難状況を見ると、被災時に妊娠中だった女性は、前震後に29.7%、本震後に42.1%が車中へ避難し、本震後は42.1%が実家へ移動しているものが最も多くいました。出産後の母子の避難状況は、46.6%が本震後実家へ移動し、次いで34.1%が車中で避難し、16.1%が友人宅や親戚宅に移動、13.7%が避難所でした。

また、地震後の女性たちの様子を見ると、45.8%がストレスにより不安やイライラ、疲労を感じていました。ライフラインの復旧の遅れ、乳幼児が泣きぐずることで避難先に居づらくなること、避難先の友人宅や親戚宅での気遣い、育児の協力者と相談者がいないこと、余震の不安などなど、多くのストレスを抱えていました。

過去に発生した阪神・淡路大震災および東日本大震災の調査では、避難所は母子にとって過酷な状況で、3日目頃から避難所で母子の姿を見かけなくなったと報告されています。熊本地震でも同様に、避難所での埃っぽさのほか、授乳スペースがなく、乳幼児の泣き声で肩身が狭い思いをすることなどから、妊婦や産後の母子による避難所の利用は多くありませんでした。反面、日常交通手段として自家用車が多く用いられている熊本では、車中での避難生活が多く、日中は移動し、宿泊駐車場には夜戻るケースが多くありました。そのため、支援対象である被災女性や母子の所在を把握することが難しく大きな課題でもありました。

02 支援の内容

1 避難所等での性被害や性暴力防止啓発活動

災害をきっかけに発生する性被害や性暴力を防止するために、熊本市男女共同参画センター（はあもにい）との連携協力により、避難所や避難先での「DV・性被害防止啓発活動」のチラシを作成し、各避難所での注意喚起を促しました。同時に、熊本地震・被災女性支援サイトを立ち上げ、女性たちがいつでも受けられる相談窓口の情報を開示しました。

2016年
4月
現地調査

災害発生直後、各避難所では女性たちのプライバシーへのケアを配慮する余裕がなく、後手後手になりやすい状況にあるため、注意喚起を促しました。

2 心の癒しギフト

緊急支援物資ではなく、被災者が笑顔になるコミュニケーションギフトとして、企業の協力を得て、水のいらないシャンプー、授乳中の女性にも優しいハーブティなどをプレゼントしました。
助産師の母子家庭訪問時や母と子の癒し交流サロン活動時に、近況を伺いながらお渡ししました。

2016年
5月
心の癒しギフト

3 助産師の家庭訪問による産婦・乳幼児支援活動

地震発生後、産後うつになるリスクが高い女性は震災前の通常期に比べ、2倍に増えたという調査報道を受け、産後うつの深刻な状況に至らないよう予防するために、スクリーニングされた女性たちを対象に、熊本県助産師会の協力による助産師新生児家庭訪問活動を通じ、育児や子育てに関する個別相談、授乳指導（乳房マッサージ）などを行いつつ、寄り添いながら母親を孤立させない、心的カウンセリングケアを行い、必要に応じて複数回の家庭訪問を実施しました。

2016年
5月～
新生児家庭訪問、
産婦への心的ケア

産婦・乳幼児
支援活動

実施人数計 417人

・家庭訪問人数計　127人
・集団健診人数計　290人

「あの時、助産師さんが家庭訪問に来てくれてなかったら…。今の明るい自分があるのは助産師さんのおかげです」

4 母と子の癒し交流サロン活動

連日の余震に怯えながら過ごす日々の中で、育児や他のさまざまな不安から閉じこもりがちな母親たちを対象に、地元の子育て支援団体のネットワーク協力のもと、交流サロンを開催しました。交流サロンの活動を通じ、母親たちが、自分が置かれている状況は自分ひとりではないことを認識し、ママ友たちとの交流を深め、社会への活動参加に前向きに踏み出せるように促しました。

2016-2017年
5月～1月
癒し交流サロン活動

ママタレントのくわばたりえさんを迎えたトークでは、参加した女性たちがいままでの辛いことを忘れ、笑顔になれました。

22回にわたるさまざまなテーマの交流サロン活動に多くの方々が参加しました。はじめは涙ぐんでいた人もサロンで癒され、徐々に笑顔を見せ、明るい表情に変わっていました。

母と子の癒し交流
サロン活動 22回開催

参加人数計 499人

03 熊本の声

声を上げられずに頑張っていた母親たちを応援したい。

1 交流サロンにて

「母と子の癒し交流サロン」を開催し、延べ499名が参加しました。

交流サロンの内容

開催日	開催場所	主な活動内容
2016年 5月26日	さくらんぼ保育園（熊本市東区広木町）	カラーボトルからひも解く遊びの癒し交流サロン
6月1日	さくらんぼ保育園（熊本市東区広木町）	長い避難生活から久しぶりにゆっくり話せる母と子の癒し交流サロン
6月21日	八代市コミュニティカフェ KOKIN（八代市松江町）	妊婦から子育て中のお母さんが対象のお茶会とおんぶ紐の体験会
6月26日	やまなみ子ども園（熊本市東区広木町）	骨盤ケア体操、育児相談、おっぱいマッサージ、ハンドマッサージ、沐浴、足浴、などの癒しサロン
6月28日	保健福祉センター かがやき館（熊本市北区植木町）	参加者同士が、体を動かしたり、コミュニケーションがとれる遊びを入れた癒し交流会
7月6日	yoga shala mana（熊本市東区広木町）	第1回おにぎりと味噌汁の会、母乳によい食事を提供、授乳相談、育児相談
7月16日	熊本市現代美術館（熊本市中央区上通町）	ママタレントのくわばたりえさんを迎えた、笑顔にしてくれるトーク
7月30日	コミュニティスペース as a café（熊本市東区山ノ内「あやの里」内）	体操で体をほぐしたり、アロマでリラックス
8月27日	コミュニティカフェ COMMUNE6（熊本市東区戸島西）	耳つぼジェリーの体験を通じ、体の発達、心の愛着形成などの話
8月31日	熊本市東区秋津レイクタウン内	第2回おにぎりと味噌汁の会、母乳によい食事を提供、授乳相談、育児相談
9月22日	熊本市流通情報会館（熊本市南区流通団地）	育児中ママを対象にした渡部信子先生の講演会（母子の体のケアについて）
9月27日	臨時オケタニ式母乳相談室（熊本市東区秋田町）	第3回おにぎりと味噌汁の会とベビーマッサージ
10月8日	えびすCAFÉ（熊本市東区広木町）	耳つぼジェリーの体験を通じ、体の発達、心の愛着形成などの話
10月16日	阿蘇熊本空港ホテル「エミナース」（上益城郡益城町）	「子育て応援カフェ bee happy」の小児科医 江崎真澄さんの「お母さんが楽になる子育て」の講話と助産師による癒し、語り場のイベントを開催（益城町）
11月6日	「リフレッシュ・ハッピーアワー」in 熊本（リストランテ・ミヤモトと地元酒蔵の協力）（熊本市中央区辛島町）	被災母子・女性を支援する従事者たち（熊本県助産師会に属する助産師、男女共同参画センター職員、子育て支援団体の運営者）を対象に、支援活動の振り返りと進捗報告
11月23日	リゾラテラス天草（上天草市松島町）	初の天草での開催。お母さんたちを癒す時間を過ごすアートとファッションのコラボイベントを開催
11月24日	「LADY TALK」in 熊本（熊本市男女共同参画センター、熊本市中央区黒髪）	ジョイセフのI LADY.アクティビストを迎え、お子さんを持つお母さんたちとのLADY TALKと健康美ウオークのイベントを開催
12月8日	ややの湯（熊本市北区植木町）	温泉施設での初めての開催。足圧式やほぐしのマッサージで母親たちを癒す企画
12月21日	コミュニティスペース as a café（熊本市東区山ノ内「あやの里」内）	熊本出身のインテリアスタイリスト津田晴美さんを迎えた講演活動
2017年 1月18日	えびすCAFÉ（熊本市東区広木町）	水だけで離乳食ができる米粉の離乳食講座を開催
1月27日	ややの湯（熊本市北区植木町）	わらべうたで、おうちから出にくい寒い季節を乗り切ってほしいとわらべうたの講師をゲストに企画
1月28日	熊本県助産師会館（熊本市中央区本山）	漢方サロンの先生による「笑顔溢れる子どもたちの育て方」の講演

2016.11.24

LADY TALK in 熊本

母子の楽しいイベントも開催しました

ジョイセフのI LADY.アクティビストの協力を得て、熊本市男女共同参画センター（はあもにい）との共催で、「LADY TALK」イベントを開催し、おもに地震発生時に妊婦だった方々が50組参加しました。
授乳服メーカーを起業した光畑由佳さんによるトークショーと、ポスチュアスタイリストの岡野真美さんによる、子育てママの美しい姿勢と歩き方のプチレッスンのイベント内容を通じ、参加者に「笑っているお母さんが増えれば、熊本はもっと元気になる！」というゲストのメッセージが深く胸に届き、大好評を得ました。

地震後、イライラすることが増えて、子どもに八つ当たりしている自分がいやだったけど、みんなと話せて、つらいのは私だけじゃないんだと思えて、気持ちが落ち着きました。

Nさん（30代）

少し遠かったが思い切って参加してよかった。子どもも喜んでいて、一緒に笑顔になることができた。

Sさん（30代）

八代市で被災して、避難所に行ったものの、プライバシーがなく、床も固かったため、開放されていた近くのサービスエリアに行って寝ていました。その後実家のある熊本市へ戻り、熊本県助産師会館で開催された「癒し交流サロン」に参加しました。それまでは一人で考え込んでばかりいたのですが、ほかの参加者の方々と話ができたことが本当によかったです。なにかやってみよう、と思えましたし、考え方を変えることで視野が広がるのだとわかりました。

Tさん（40代）

交流サロンに参加したママ達の声

※一部をご紹介します

不安だった子育ての相談や生活情報が聞けてよかった。

Yさん（30代）

震災時は全く想像していなかった、今こうしてこの場にいること、この子と笑い歌えることに感謝です。何が起こるかわからない時代ですが、赤ちゃんをしっかり抱きしめながら、これからの子育ても楽しんでいきます。

Kさん（30代）

地震後つらいことが多く、子育ては不安ばかりでしたが、少し楽になりました。今を受け入れる勇気をいただくことができました。このような機会をありがとうございました。

Tさん（40代）

家にばかり閉じこもりがちだったが、体操やハンドマッサージが気持ちよく、楽しかった。

Mさん（30代）

震災後、母乳が詰まりそうな食事が多かった。食事内容を考えるいい機会になった。

Oさん（30代）

癒し交流サロンに参加して、子育てをする同じ立場の方々と交流できたことがよかったです。子育てをする中での悩みや子育ての工夫を聞くことができて、とても有意義な時間を過ごすことができました。家にいても話をするのは赤ちゃんとばかり。だから多くの方と話をし、ママ友ができたことで気分転換になりましたし、とても安心できました。自分と子どもとの関わり方にも気持ちの変化が起きたと思います。

Tさん（40代）

家にばかりいるとイライラして、子どもといるのがうっとうしく思う。自分に自信がなくて…と涙。今日のサロンが、外に出るきっかけになった。

Hさん（40代）

震災時、生後1カ月だった娘を連れて初めて外出しました。皆さんの体験話を聞き、つらいのは自分一人ではないことがわかり、ほっとしました。楽しかった。

Eさん（30代）

「元気に過ごすためのヒントをもらえました」「ママも一人の女性として自信を持って美しくありたいと思いました」「小さい子を連れたお母さんがたくさんいて、大変なのは自分だけじゃないと思いました」「パワフルなお母さんたちに出会えて刺激になりました」などなど、参加者から多くの前向きな声をいただきました。

03 熊本の声

**助産師さんやサポーターが大活躍
被災した母親たちも、誰かのためにと
立ち上がってくれました。**

❷ 助産師・サポーターの声

震災時の母親には、赤ちゃんを守らなければ、家族を守らなければ、という2つの使命感が生まれます。しかしその思いによって、自分が大変だとは言えなくなってしまいました。熊本地震では、熊本県助産師会の助産師さんたちが避難所を回り、赤ちゃんのいる家庭を訪問しておっぱいマッサージや話を聞くなど、細やかなケアにあたってくれました。母親と話をする際には気持ちに寄り添い、思いをはき出せる雰囲気をつくることを心がけたそうです。家庭訪問は必要に応じて2度実施。1度目では話せなかった人でも、2度目の訪問時にたくさん話を聞いてもらい、心が穏やかになった、という声が多く寄せられました。

一方、自らも被災していながら、「母と子の癒し交流サロン」などでボランティアとして参加してくれた母親もいました。人が喜ぶ姿が自分を元気にしてくれる、そこへ行けばほかの母親たちと話ができる、という思いでした。支援しているようで、その場や参加者から元気をもらっているという“お互い様”の感覚。友達になっていく母親たちを見ていて、心がつながっていくのがわかったと言います。

支援活動を支えてくれた

ママたちは、避難所が男女共同というだけでも気を遣うことになり、母乳の出が悪くなるなど、メンタルに影響が出ていました。産後に頼るはずだった人たちが頑張っている中で自分だけ甘えることなんてできない。そうして不安な気持ちを抱えたまま過ごす毎日はとてもつらく、悲しいものだったと思います。

Nさん（30代）

交流する場を設けられたことで「あそこに行けば誰かと話せる」「参加したことで多くの人とつながれた」など、ママたちにプラスの気持ちが生まれ、それが大変な時期の心の支えとなっていたようです。災害時だけではない、いつでもママたちが集い、情報交換できる場の必要性を痛感しました。

Mさん（40代）

また、そんな助産師さんと母親が共に活動する「おにぎりと味噌汁の会」も立ち上がりました。避難所での食事はパン、カップ麺など防災ご飯が中心。これでは体のバランスが崩れてしまいます。そこで日本食の基本でもあるおにぎりと味噌汁で元気になってもらおうと始まったのです。助産師さんによる家庭訪問の報告書では、熊本地震の影響で母乳トラブルを抱える母親が多いという内容が見られました。ご飯をきちんと食べられていないことが、赤ちゃんにしっかり母乳をあげられていないのでは、と自責の念を生んでしまうこともあります。この会は、おいしいおにぎりと味噌汁を食べながら母親同士が気持ちを出し合い、情報交換をする場としても機能していました。

そしてこれから。今回、性暴力やDV被害を防ぐための避難所キャラバンなどで活動していただいた「熊本男女共同参画センターはあもにい」の担当者によると、復興が進むにつれて、母親たちのニーズが変わってきているそうです。それぞれが自分たちの明日を考えていく中で、ニーズが多様化してきているのです。しかし、多くの支援者、参加者の声には「母親たちがいつでも集まれる場所が普段からほしい」「交流サロンのような場所が今後も続いてほしい」という内容が多くあります。ではどのような場をどう設け、運営していくべきか。熊本の女性たちが本当に笑顔で暮らせる日のために、そこを考える時期に来ています。

熊本サポーターの声

交流サロンに参加したことで気持ちが楽になった、それまで一人で考え込む毎日だった、と話してくれたママがたくさんいました。つらい思いをはき出す場所がなければ、それはママたちの心に溜まり、いつか別の形で噴き出します。だからこそママたちが気持ちを外へ出せる場所がとても重要だったと感じています。

Iさん（40代）

震災後、多くのママが気を張った状態で不安な日々を送っていました。会があっても、一人だけ楽しむことに遠慮を感じるママもいます。子どもと一緒に楽しめる会を催したことで、母子とも笑顔になれ、参加したことが前を向くきっかけにもなったようです。自立を意識した支援を続けていきたいと思います。

Wさん（40代）

04 これからのために

熊本地震から1年半。
これからの熊本のために、そして次の災害に備えて、
私たちが考えるべきこととは何でしょうか。

今回、ジョイセフが助産師の家庭訪問による産婦・乳幼児支援活動を実施するにあたり、いくつかの課題がありました。この支援活動は、市町村が実施する生後4カ月までの乳児のいるすべての家庭を訪問し、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する情報提供等を行う乳児家庭全戸訪問事業の一環として実現したのです。熊本市はもともと乳児家庭全戸訪問事業を熊本県助産師会に委託しているため、助産師による家庭訪問を実施することができ、乳幼児の育児相談や産婦の心のケアも可能となりました。

一方、熊本市以外の被災地（益城町、南阿蘇村、西原村など）では、乳児家庭全戸訪問事業は各市町村自治体の担当部署が実施していたため、今回の助産師による家庭訪問支援活動は行政の了承や委託がなければ、立ち入ることができませんでした。ところが、各自治体は避難所での住民対応等の業務に追われており、実質的に乳児家庭全戸訪問事業は後回しになっていました。また、個人情報保護の観点からも、家庭訪問の対象住民の情報を自治体から入手できずにいました。そのために、助産師の家庭訪問による産婦・乳幼児支援活動を実施するにあたり、各被災自治体との調整に時間がかかり、思うように支援活動を進めることができませんでした。

こうした背景のもと、助産師による家庭訪問支援活動は最終的に、熊本市をはじめ、益城町と嘉島町の女性と母子を対象とすることになったのです。

また、被災した妊婦にとって最も不安なのは胎児の成長です。災害時の健診で胎児の無事が確認できれば、不安を軽くすることができます。今回、災害に遭った妊婦がかかりつけではない避難先の病院での健診を拒否され、やむなく、この産院で出産することを虚言し健診を受けることができた事例がありました。

これらの事例を踏まえ、これからの災害のためにどうすべきか。そこで見えてきたのは、以下の4つのポイントです。母子のために、今後も考え、行動し続けなければなりません。

POINT

1. 災害時の避難所では、妊婦や母子が利用しやすいような環境を整備する。
2. 災害時の状況調査から、避難所ではなく、在宅避難している妊婦や母子にも必須な支援物資が届くようなシステムの構築をする。
3. 母子健康手帳には、災害時に妊婦がどのような行動で避難したらよいかということに関わるマニュアル内容の記載を提案していく。
4. 母子健康手帳のデジタル化を目指し、災害時にどの医療機関でも妊婦や胎児の成長や状況が把握できるようにし、妊婦の不安を軽減する。

ご寄付あるいは物資のご支援をいただいた企業・団体の皆様の一部をご紹介し、改めて感謝の意を表します。

寄附金・支援金をいただいた企業・団体（五十音順）

カンガルー宮前子育てねっとわーく
（株）銀座千疋屋
向南幼稚園父母の会
（特非）国際協力NGOセンター
国際協力機構 北海道国際センター
国立病院機構九州医療センター 附属福岡看護助産学校
女子カーリング 北海道銀行フォルティウス、ロコ・ソラーレ北見
Studio navel タカダナツコ
（株）千疋屋 総本店
（株）ダッドウェイ
Wクリニックフォーマザーズ幕張
チーム100 タカラ
（株）デーメテール千疋屋
（株）十勝野フロマージュ
（株）ナカノオート
（株）ビズホープ
HiPs
ファミリーヨガ ワイオリマキ
（社）フェミニンリーダーズ
フランスのごはん Cream
（財）ベネッセこども基金
（株）ポーラスタア
マムズ・ラブ・ジャパン
（社）ミスユニバースジャパン
三菱樹脂（株）
やすらぎチャリティー
（社）ランガール ランガールナイト9/3分
（株）レガティ
ローリタッチケア協会

《その他》
阪急阪神百貨店うめだ本店 イベント会場参加者
被災女性支援チャリティー ピンキーリング購入者
および157名の個人支援者

物資をご支援いただいた企業・団体（五十音順）

（株）ダッドウェイ
マリエン薬局自然療法ショップ
ロクシタンジャポン（株）
THREE

熊本地震被災女性・母子支援 収支報告

寄附金・支援金・チャリティイベント等による
事業活動収入 計
5,165,283円

【 支出内容 】

助産師の家庭訪問による産婦・乳幼児支援活動	1,557,144円
母と子の癒し交流サロン活動	2,357,293円
避難所等での性暴力防止啓発活動	174,678円
心の癒しギフト提供および支援活動に関わる広報・報告活動	426,275円
業務管理費	649,893円
支出計	5,165,283円

ジョイセフ
JOICFP
途上国の妊産婦と女性を守る
公益財団法人 ジョイセフ

熊本地震被災女性・母子
支援活動レポート

2017年10月1日発行
発行人：勝部 まゆみ

〒162－0843
東京都新宿区市谷田町1-10
保健会館新館
TEL 03-3268-5875
FAX 03-3235-9774

https://www.joicfp.or.jp/jpn/

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固くお断りします。